

研究計画書

ゼミ名	高ゼミⅡ	チーム名	MaaS and...
タイトル	日本版 MaaS には何が必要か？		
テーマ群	e)産業・企業		
メンバー			
研究計画内容	<p>「研究の背景とその目的」</p> <p>近年の自動車産業は「電動化」や「自動化」などに注力しており、トヨタ自動車の豊田章男社長は「100年に一度の大変革の時代」と表現した。一方で、新たな移動のあり方として注目を集めるのが「MaaS(Mobility as a Service)」である。MaaSとは、マイカーと同等以上に魅力的な移動サービスを提供し、持続可能な社会の構築を目指す概念である。あらゆる交通手段が統合され、1つのアプリで検索・予約・決済機能にアクセスできるようになる。プラットフォームビジネスの側面があるMaaSだが、いまだ発展途上であり、国内外の様々な企業がその在り方を模索している。そこで私たちは、渋滞問題、地域過疎化、少子高齢化といった日本が抱える問題の解決の糸口としてMaaSが有用であると考え、日本版MaaSを実現するために必要な仕組みを研究した。研究目的は、MaaSを広く認知してもらい、その実用性を理解してもらうことにある。</p> <p>「研究内容」</p> <p>MaaSの基礎知識を把握した上で、海外と日本の交通事情の違いを踏まえつつ、日本の強みや課題を洗い出していく。具体的には、日本全国で行われた公共交通の統合、観光MaaSの取り組み、物流MaaS、自動運転に関する実証実験の結果から現状を分析する。その中でマイカーと同等以上の価値を提供するには何が必要であるかを探っていく。特に、どのようなサービスが実現すれば、マイカーを手放すのかという点に焦点を当てる。</p> <p>「期待される成果」</p> <p>MaaSの概念を理解することで、私たちが当たり前に行う「移動」について改めて考えるきっかけになるはずである。現在のMaaSの普及状況を踏まえ、日本版MaaS推進へ要点を押さえた提案をすることで、実現の具体性を高めることができる。</p>		